

平成 29 年司法試験の結果について

平成 29 年 9 月 12 日、本年度の司法試験の結果が発表され、本法科大学院の修了生 17 名が合格しました。最終合格率は 19.32%で、合格率でみた全国順位は、全 74 校中の 19 位でした。

最終合格率の全国順位は、平成 18 年度 17 位、19 年度 21 位、20 年度 18 位、21 年度 18 位、22 年度 17 位、23 年度 23 位、24 年度 14 位、25 年度 18 位、26 年度 15 位、27 年度 11 位、28 年度 8 位で、ここ数年で着実に伸びてきていただけに、今年度は誠に不本意な結果に終わりました。

ただ、法科大学院の教育力を端的に示す累積合格率は、(今年度のものを含めた最新のデータはまだ公表されておりませんが)全国平均が昨年度までの 51.01%からさらに下がることが確実である一方で、本法科大学院では、24名の新たな受験者と 17 名の新たな合格者が加わる結果、昨年度までの本法科大学院の累積合格率(53.36%)から上昇することになり、全国平均累積合格率をさらに上回る見込みです。

また、直近の修了生(法科大学院を修了して初めて受験した者)の合格率は、33.3%であり、決して悪くはありません。総長裁量経費による支援を受けて、本法科大学院を修了した若手弁護士に学修支援アドバイザーとなっていただくなど、丁寧な指導を行っていることは奏功しております。

以上のとおり、在学生についてはその指導に相応の実績がありますが、それに満足することなく、指導がよりきめ細かなものとなるよう、引き続き改善・工夫して参りたいと考えております。

その反面、修了生(司法試験を受験するのが2回目以上の者)の合格者は、昨年は 20 名でしたが、今年は 8 名にとどまりました。今年の司法試験結果の大きな原因の一つは、この点にあります。本法科大学院では、修了生の学修支援対策として法務研究員制度を設けておりますが、今回の結果を踏まえ、それにとどまらない対策を早急に講じる予定です。

平成 29 年 9 月、本法科大学院は、九州・福岡において裁判所、検察庁、弁護士会といった司法機関が集積する予定の六本松地区に教育施設を移転しましたが、ごく身近に法曹三者との交流を果たせる環境を得たことは、以上の教育的措置を実践し展開していく上で、これ以上ない恵まれた条件であることを付け加えておきます。

以上のとおり、本法科大学院では、今年度の結果を真摯に受け止め、さらなる教育の改善に取り組み、次年度以降には、必ず最終合格率の挽回を果たします。

九州大学法科大学院長 堀野出